

国内 IGF 活動活発化チーム第 65 回会合 発言録

加藤：皆さんこんにちは。5 時になりましたけれども、まだこれから入られる方がおられると思いますので、もう 1、2 分待ちいただきたいと思います。

それでは予定の時間になりましたので、第 65 回目の国内 IGF 活発化チーム会合をスタートしたいと思います。皆さんお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

まだこれから参加される方もいらっしゃると思いますが、まずアジェンダに沿って日本政府からのご報告ということで、宮本様がいらっしゃるんでしょうかね。総務省の方他いかがでしょうか。

宮本：届いておりますでしょうか？宮本です。聞こえてますか。

加藤：はい聞こえております。よろしくお願いします。

宮本：今回ちょっと寺村さんいらっしゃるないないかもしれないんですけど、私からデータ通信課の方からの ICANN 関係のことについてお話をさせていただければと思います。次回の ICANN（会議）なんですけれども、10 月の最終週というか 25 日あたりからスタートします。いつもの通りではあるんですけども、DNS Abuse であるとか、New gTLD とかその辺りが議論になりますので、総務省としても参加をしてまいりたいと思います。現在各セッションについて準備を進めているような状況でございます。簡単に恐縮ですが以上でございます。

加藤：ありがとうございます。例えば MAG についてとか WSIS についてとか、その辺は特にございませんか？宮本様の方からは。

宮本：そうですね、私の課の方ではその辺りの状況を把握してないので、私の方から共有ができないです。申し訳ございません。

加藤：いえ。とんでもないです。ありがとうございます。宮本様の方にご質問、皆さんいかがでしょうか？特にございませんか？国際（戦略局）の方は今日はどなたかご参加になるかどうかというのは宮本さん聞いてらっしゃいます？

宮本：聞いてないですね。ちょっと今日は参加がないかもしれないです。次回以降ちゃんと参画できるように、調整をさせていただきます。申し訳ございません。

加藤：とんでもないです。それでは引き続き次のアジェンダに移らせていただきたいと思います。次は MAG の報告ということで私の方から簡単に報告させていただきますが、山崎さんちょっと資料を見せていただいてもよろしいですか。

私が先日 9 月の 18 日だったんですが、MAG の会合が久しぶりにありまして、まとめを作りましたので、この今映していただいている内容がそうでございます。まず最初に挨拶ということでですね、通常であれば、Carol Roach が議長をするんですけども、2 人の議長が、もう 1 人はノルウェー政府の方

ですけれども都合が悪いということで、チャンゲタイ（国連 IGF 事務局長）が最初開会の挨拶をした後ですね、ノルウェーオスロの会議でいろいろ事務局として、いろんな案内をされていたトゥアンさんっていう、アジア系の女性が全体の司会をされて進行を進めたということでございます。最初にピーター・メイアが先日亡くなったということで、皆さんで黙とうをしたりとか、いろいろでした。ぜひメッセージがあればそれに書き込んでくださいというような挨拶がありまして、引き続き事務局から最近の状況報告ということでここに書きました通り、IGF のこの 20 年間のアチーブメントとインパクトに関するペーパーが完成しましたということで、これもクリックしていただくと Web サイトにありますのでご覧になれると思います。それから IGF の Web サイト自身が見にくいというのが昔から言われていたんですけれども、それは今修正中ということでございます。これに関しては以前から MAG の中で結構いろいろ議論があって、どうせ修正するならいろんな言語に対応できるようにしてくれてのは私も MAG の中では言っております。ということでそれができますということです。それから今度 APrIGF が今度残念ながらリモート会議になってしまったんですが、プレナリーパラメンタリイトラックっていうのを APrIGF 事務局中心で今計画していますという話がありました。アジアパシフィックでもパラメンタリイティトラックっていうのを今後もやっていくっていうメッセージだと思います。それからリーダーシップパネルのヴィント・サーフとマリア・レッサから、リーダーシップパネルとしてのビデオメッセージっていうのを作ってますということで、これ各国への働きかけのビデオができるということでございます。それから WSIS+20、これ後で MRI の関係とかでもご報告あると思いますけれども、いろんな動きについてはここに書いておきました通りですね。国連 DESA のウェブサイトにもどんどんアップデートがなされていますということでございます。それから今日がデッドラインということですが、10月13日・14日に DESA の方で行われるコンサルテーションの手続き申し込みは、今日で締め切りですということでございます。それから WSIS+20 のゼロドラフトが先日出ましたけれども、そのコメントの締め切りが確か今日になったんですが、これは 1 週間延期して 10 月 3 日までということでございます。それから MAG として今回特に重要というか、今後重要なこととして出てきたのがですね、MAG の今後ということですが、今年の MAG というのは 1 年限り、今までの 20 年間の MAG とはちょっと違ってですね、過去いろんな形で IGF に関係してきた人間が特に選出されたということから、MAG の今後のあり方についてもぜひいろいろ提案をしてほしいという話がありました。提案があれば、それを国連のアンダーセクレタリーなり、エグゼクティブオフィスに提出して国連としても MAG とか IGF の今後の修正に貢献すると、そういうことを期待しているということでございます。以前にも申し上げたことあるんですが、もし今後の MAG のあり方について修正がなければ、2024 年に戻って元々 3 年間、3 分の 1 ずつ入れ替えてローテーションをして、活動も今までやってきたという内容に沿って 2024 年の段階に戻ると。だから 25 年だけは特別だったけれども、もし修正ということがなければ 2026 年から元に戻るという、そういうスケジュールだということを念を押されました。ただ、MAG の中で有志が、ここにあります通り、今後の MAG のファンディングだとか NRI との関係とかセッションの選択方法とかですね、これ MAG だけに限らず、IGF の将来についてディスカッションドラフトを作っておりまして、これについてもいろいろと皆さんからご意見あればフィードバックしていきたいというふうに思っ

ております。特に MAG を私今年経験させていただいて、大変な数のセッションの申し込みがあってワークショップ、それをもう実際のところは 10 分の 1 ぐらいに削るというその作業が結構大変だったんで、こういうようなことをどうやって改善していったうまく進められるようにするかとか、その辺を結構皆さん盛り上がって議論がありました。ということでございます。その他として今後も MAG（会合を）、このところちょっと静かだったんですが、2 週間に 1 回程度はやっていくということで次回も予定が決まっております。簡単ですけども MAG についてはこれだけです。ごめんなさい山崎さんから手を挙げていただいてて見逃して失礼しました。山崎さんどうぞ。

山崎： すごく細かい点になってしまいますけど、WSIS+20 の 10 月 13 日・14 日のオンラインコンサルテーションの申し込み締め切りはこちらを 9 月 26 日から 10 月 3 日に延長されたとなっておりますね。日本時間ですと土曜日のお昼ぐらいまであるようですけども。ご参考までということで。

加藤： 失礼しました。そういう意味で言うと、ゼロドラフトへのコメントをどういうところがポイントになるかっていうのを見ていただくには良い、コンサルテーションの会議かなというふうに思います。ご質問等ございますでしょうか？大丈夫でしょうか？

それではスケジュールに沿って、次は NRI ということでこれかなりかぶる点もあるかと思いますが、山崎さんお願いしてよろしいでしょうか？

山崎： 簡単に MRI に関する報告をさせていただきます。前回から 2 回 NRI の会合がありました。第 8 回は 8 月にあったもので、今後の作業計画ということで、WSIS+20 などで忙しくなるということで、ウェビナーみたいなのを開くっていうのはちょっと避けて、メーリングリストで意見交換しようということで、2 番目は MRI ツールキットの見直しをするということなんですけど WSIS+20 の結果が影響するかもしれないってことで 12 月以降に本格的に見直すということになっています。その次は NRI のインパクトを文章化するってことですね。これは事務局がアンケート調査をするということになります。次の報告書がいろいろあるんで、標準化を検討する提案がありましたけれども、一方であんまり厳しくやってしまうと、ちょっとねっていう姿勢も示されています。第 20 回、6 月にノルウェーで開催された IGF の NRI 関連セッション全部で五つぐらいあったと思いますけども、これらの報告書を単一の文書に統合するという提案は支持されなかったということになっています。今後は IGF 事務局が作業計画のフィードバックをメーリングリストで募ることと、次回会議の日程調整のためにアンケートを送信することと、IGF の成果文書を配布予定ということになっています。この成果文書、先ほど MAG の報告であったやつだと思いますけれども、既にほとんどできてるんじゃないかと思います。第 9 回の NRI コーディネーターの会議の報告ですけども、9 月 24 日に開催されました。まずは WSIS+20 のゼロドラフトへの意見提出ということで、各国 NRI はこれに応じるよう奨励されてますということで、ちょっと日本のは我々の方ではちょっとできてないんですけども。もし必要であればあと 1 週間以内ですけれども今週中ということですから、かなりギリギリにはなりますけども、ご要望が強ければ検討します。既にここに挙げてある例のように意見提出検討中もしくはもう提出したよという MRI もいるということですね。NRI は先ほど加藤さんがおっしゃっていた、10 月 13 日と 14 日の WSIS+20 のコンサルテーションへの参加も推奨されるということで、これはオンライン

ですので申し込んでおけば誰でも参加できるということです。申し込みは今週いっぱいですので、なるべく早めに申し込まれた方が安全かと思います。第8回でもあったんですけども、NRIの影響に関する意見収集のための調査をIGF事務局が準備するということですね。どういう内容にするかというところで提案がありました。それについてフィードバックをするようにというふうに要請されております。今後の関与機会ってということなんですけども、APrIGFが10月11日から14日オンラインのみとなりましたけれども、これとLACIGF、ラテンアメリカ・カリブ海地域のIGFです。これは11月頭ですけども、これら両イベントに関してNRIがWSIS+20に関する議論に積極的に関与する機会が設けられるということです。詳細がわかればお知らせします。NRIからの報告は以上ですけども、何かご質問等ありましたらお願いします。

加藤：皆さんご質問ございますか。特に大丈夫ですか？もしWSISのプロセスとかですね、何かご質問があればまた改めて会合後でもご質問していただければと思います。山崎さんどうもありがとうございました。それでは次のアジェンダアイテムということで、今度予定しておりますIGFの報告会ですね。6月のオスロ会議後若干時間がずれてしまいましたが、報告会をやりましょうということで、ご案内は既に行っております。これについてアップデートとかご意見とかあればお願いしたいんですが、皆さんいかがでしょうか？先日、簡単なご案内は出していただいていた、ただ詳しいアジェンダとかですねそこまでは出てないんですが、何かご意見とかご質問ございますか。10月8日水曜日午後2時から5時までということだったと思います。ぜひ奮ってご参加いただければと思うんですが、いかがでしょうか？山崎さんから何かうんご準備に関してご報告いただくことがありますか。

山崎：はい、詳細なプログラムについて、まだお知らせできていませんで、それは今週中にやりたいと考えています。今のところ、現地に参加なさった8名の方がそれぞれご報告いただくのと、1時間程度時間を取って、WSIS+20ですとか、インターネットガバナンス全般についてパネルディスカッションをすると、その2本立てでいきたいと考えています。今のところは現地にいらっしゃった8名の方は把握できてるんですけども、それ以外にも日本からの方でセッションに参加された方とかIGF行かれた方とかいらっしゃるみたいですので、もしそういう方ご存知でしたら、ぜひお知らせいただければと思います。

加藤：一応8名。山崎さん、ここでいうと前村さん、高松さんとあと…

山崎：立石さん。あと中澤さんですね。セッションをやられてますけど、

加藤：もうお一方ぐらい。

山崎：ちょっと名前が。

加藤：今申し上げた方以外で出たとか、自分も出て報告したりとかっていう方がいらっしゃれば。

山崎：あと宮川さんと大学にいらっしゃる方、名前が出て来ない。

加藤：早稲田のそうですね、寺田さんですね。

山崎：あと総務省からも寺村さんと飯田さんと両方行ってらっしゃいまして、もちろんご報告いただけることにはなっております。

加藤：ということは、もう既に…

山崎：今申し上げた全部を足すと 8 名、飯田さんも足すと 9 名ということですね。

加藤：はい。1 人本当に簡単に 5 分から多くても 10 分程度お話を前半ではしていただくって感じですよ。

山崎：はい。

加藤：特に報告+いろいろの感想も言っていただいてということだと思います。後半のパネルディスカッションについてどういうふうに進めるか。山崎さん少しご提案とかございますか。

山崎：ちょっとまだあまり具体的に成っていないんですけども、先ほど申し上げた通り WSIS+20 およびインターネットガバナンス全般ということで、WSIS+20 今のままの提案が通るとすると、もう IGF は恒久的に開催するという提案になって、それが却下されない限りはもうずっと開催するということになるんで、そういうふうになったときに IGF はどうなるのか、地域 IGF 例えば AP-IGF はどうなるのか我々がどうしていくのかっていう辺りを議論していく必要があるかなと思ってますけどももうちょっと整理が必要かとは思っています。

加藤：皆さん何かご意見ございますか？どういうふうに進めるかについて、いきなりですけども例えば前村さんちょっとこのパネルディスカッションのモデレーターをやっていただくとかってのはいかがでしょうかね。

前村：私がよろしいのであれば、喜んでやらさせていただきます。

加藤：そうですか。はい皆さんいかがですか。どなたか全般的な進行とモデレーターをやっていただく方がいた方がいような気がするんですけども、いかがでしょうか？自薦があればもちろんそれもありがたいですけども、前村さんがお引き受けいただくなら前村さんをお願いしてよろしいでしょうか？何も意見がないということは異議なしということかと思いますが、前村さんよろしいですか？

前村：はい、わかりました。

加藤：どうぞよろしくお願いいたします。1 時間。その前に各自いろいろご発言されるので、その中からとかですね、ピックアップしていただいて、それがもう時間も経っていてかつもう 12 月の国連総会に向けて、オフィスも走っているということで、今後の動きのような議論もいろいろとそこの中でしていけばいいのかなっていうふうに思いますので、ぜひよろしく願いしたいと思います。山崎さん、このアジェンダはそれでよろしいですかね。

山崎：はい。あとは具体化する作業と、あとその内、結果を知らせるということですね。主にこちらでやれることかなと思って…

加藤：事務局として。今の9人のお名前を書いていただいて、最後1時間前村さんのモデレーターで自由にディスカッションするとそそういう内容でいいのかなと思いますけどね

山崎：はい。あとは参加者の皆さんに5分なのか10分なのかどれぐらいご報告に時間を要するかを1人1人お伺いして、平行して、パネルディスカッションの内容を詰めるということをやります。

加藤：はい。それでお願いします。もう次のノーティスはその辺ももう少し書いていただいて、ご案内いただくということをお願いしたいと思います。何か他にコメントをご意見ございますか。そんな感じでよろしいでしょうか？

今総務省の内山様からですね、現在特別交渉官を含め IGF 出張者が南アフリカにご出張で、今回はご報告いただけないというご連絡をいただきました。次回以降ぜひよろしくお願いしたいと思います。

それでは次の大項目に移させていただきたいと思いますが、これらの会議以外で、さっき WSIS+20 のコンサルテーションのミーティングなんてのもありましたけれども、先ほどの10月末頃の ICANN を含めてですね、何かご報告いただくようなことはございますでしょうか？これ国連の DESA のアナウンスですね。後にスケジュールがいろいろありますけれども、先ほどの10月13・14日の日付も入っておりますけれども。

山崎：1点だけ。この表の10月27日から28日、これは ICANN84 会議、アイルランド・ダブリンで開催されますけれども、その中で（WSIS+20 に関して）国連がステークホルダーと加盟国向けコンサルテーションを行うということですので、宮本さん始め、ICANN 行かれる方はこれにご参加いただくことが可能かなと思いましたがということですね。ですから今週末、ゼロドラフトの締め切りが来て、13日、14日にバーチャルでステークホルダーと加盟国向けコンサルテーションがあります。翌15日には、これは加盟国だけだと思いますけれども、ですから総務省さんだけが参加できると思いますが、国連本部で準備会合があると。また次の日からですね、2日間で週末挟んでまた2日間。これはネゴシエーションということで、多分これは政府間で交渉するということが一番肝なんじゃないかという気が個人的にはいたしますが、ゼロドラフトに対する意見がいっぱい出てくるでしょうから、それを国同士で賛成／反対意見を闘わせるということになるんじゃないかと思います。それを受けて、11月にまた次の版の成果文書が出てくると、またそれに対して交渉があり、コンサルテーションがあって、12月16日・17日に国連総会でハイレベル会議、ここんときはもう完成系の成果文書を承認するだけってということになるんじゃないかと想像してますけど、ちょっと詳細は総務省の方でないとわからないと思いますけれども、私が想像してるのはそういう感じですね。ということで WSIS+20 のスケジュールはこういうふうになっています。このページの URL をということだったんで共有いたしますが、そんなところでしょうか？

加藤：どうもありがとうございます。ご質問ございますか、皆さん。

少しリマインドなんですけれども、この WSIS+20 に関してはインフォーマルマルチステークホルダーサウンディングボードって、なんか面白い名前なんですけど、サウンディングボードっていうのが作られて、これ MAG の何人かリーダーシップパネルのヴィント・サーフと何人かが合わせて10人ほど

の人が入ったグループができて、そこが WSIS+20 に正式にいろいろと意見を申し上げるという、そういう構造となりました。10月13日、14日はコンサルテーションといいますけれども、みんな言い放しでどこまで意見を聞いてくれるのかってのは、これも前からずっと議論があったんですけど、そういうプロセスが今度ありますけれども、既にこのインフォーマルマルチステークホルダーサウンディングボードはいろいろと意見を言ったり紙を作ったりという手続きをやっているようです。そういう意味で、今後そういうものを受けて、山崎さんからお話があった通り、各国のメンバーと国連との間でさらに議論が進むということでございますので、もし10月半ば以降で、総務省の方でフィードバックいただけることがあればぜひそのときにはお願いしたいと思います。

これはそういうことでよろしいでしょうか、ご質問さらにございますか、何か。山崎さんその議事録には今のページの(URL)を貼り付けておいていただければいいかもしれないですね。その他のイベントということでもう一つ、これこれも山崎さんからご報告というか、ご紹介いただいた方がいいかもしれないんですけども、10月の16日・17日にフランスのIGFと日本IGFっていうよりこれWIDEとか日本側の窓口が、私もIGFっていうことではないんですが、日仏インガバ会議って今書いていたいたこういう会議を開催されるということを伺っております。これ16日、17日ですね。16日の午後と17日（終日）夕方までですかね。夜なんかまた食事会もあるようですが、東京のフランス大使館で行われるということでございます。フランス政府が支援されているということです。それに関連してこの会議自身は両国のIGF関係者も参加するということでIGFに限らないんですが、いろいろなデジタル社会に関する議論をするようですね、加えてこの活発化チームにも声がかかったので、サイドイベントとしてこれに関連して、フランスからいらしているAfnicの方が、ここに書いていた通り10月20日夕方5時からJPNICの会議室プラス、これリモートでも参加できるようにする、山崎さんされますか。

山崎： はい、それはできるようにします。

加藤： ということで、何とか来るであろうルシアンとそれからセバスチャン、ICANNでずっと活躍されているセバスチャンも参加するということで、少し盛り上がりそうなので、ぜひご興味があれば、フランスのIGFは非常にジュネーブにも近くて、いろいろなIGF、WSISや何かの動きをよく把握しているので、そういうアップデートもあるかと思っておりますので、この機会にご参加いただければと思います。これメーリングリストにも、もうちょっと具体的にご案内差し上げますよね、今度。

山崎： はい。それはなるべく早めになりたいと思っております

加藤： そうですね。ちょっと私も失礼しました。十分まだタイミングを把握してない部分もあるんですけども、村井先生も17日の午後出ていただいて一緒にディスカッションするような企画も聞いております。ということで、さらに詳しいことがわかりましたら山崎さんからご案内していただこうと思っております。何かこの件もご質問等ございますか。

このときにICANNということもあるので、日本政府とのミーティングっていうのは宮本さん、企画されてるんでしょうか？フランスと。

宮本： このタイミングでですね？ちょっとすいません。ちょっと私の方でまだわかってないので聞いてみますはい。

加藤： もし、彼らも時間があればそういうのもあるのかもしれない。ちょっと私が言っちゃってよかったかどうかあれですけど。

宮本： そちらの方のチームに本件の話が来てるかどうかも含めて少し確認してみますね。はい。

加藤： 芝ちゃんがいるんで ICANN 関係は彼は語れると思うんですよね。はい。JPNIC さんにお声かかってるんですよね？山崎さんか前村さんがあれでしょうか？

山崎： 前村が登壇する予定になっていると伺っております。御社は国際戦略局のどなたかに登壇を打診されているというふうに伺っております。

加藤： なるほど。はい。

わかりました。ありがとうございます。何かご質問ございますか？それではそういうのがあるということで改めてご案内をさせていただきます。次にこの活発化チームの勉強会ですけれども、今日この後今度朝日新聞に移られた。若江さんからお話をいただくということですのでけれども、次回がまだ決まっていないんですが、どなたか次回ご提案とか広報ご推薦等あれば次戦でも他他戦でも結構ですが、いかがでしょうか？ 特にございませんか引き続き次回次からずっと大募集中でございますので、ぜひ皆さんにご披露していただくようなことがあればですね、ご提案をお願いしたいと思い、思います。もし次回特になれば、先ほどお話をした日仏インターネットガバナンス会議とか、それからその直前に APrIGF その次のページで項目として出てきますけれども APrIGF もありますので、その辺の簡単な報告会といいますか、意見交換、そういうことをしたらどうかっていうのを山崎さんからご提案いただいてるんですけれども、その辺皆様からのご提案の状況を見て、次回企画を決めさせていただきたいというふうに思います。山崎さんから何かありますか？

山崎： 今加藤さんがおっしゃった以上のことは特にありません。

加藤： ぜひこの勉強会、いろいろと違ったご意見、お話を聞けるのを楽しみしておりますので、いろいろとご推薦をお願いしたいと思いますそうでなければ、今申し上げた通りですね。その間にある会議のご報告と聞かれた方からいろいろ感想を言っていただくとそういうので次回は勉強会としても意味があるのかなというふうに思っております。そういうことで勉強会に関してはそれでよろしいでしょうか？では次に移らせていただきまして APrIGF ですけれども、この状況について何かここで活発化チームに披露いただくようなことございますでしょうかね。

山崎： はい山崎から 2 回、大体 2 週間に 1 回、MSG マルチステークホルダーステアリンググループの会合に参加してますので、その内容を簡単に報告したいと思います。9 月 3 日水曜日の報告ですけれども、こんときにはまだ会場開催が前提だったんで、この部屋を使うとか、いろいろあったんですけども、先ほど加藤さんがおっしゃったように全部オンラインになりましたので、この辺はちょっとだいぶ違ってくるっていうことになります。MSG の中にはイベント委員会、プログラム委員会、フ

フェローシップ委員会で WSIS+20 ワーキンググループで選挙管理委員会といういろいろあってそこから報告がありました。イベントコミュニティからはゼロのプログラムでユース IGF のセッションについて報告があり、プログラム委員会からは議題はもう確定して、議題案が公開された旨報告がありました。基調講演は、Internet Society(ISOC)事務総長のウェントワースさんが務めるということになっています。あとはオープニングとクロージングプレナリーのパネリスト選定を継続中と、この時点ではなっていました。フェローシップ委員会ではメンターシッププログラムについて主に報告されています。WSIS+20 ワーキンググループは、ウェビナーを9月17日にやる、この時点ではやる予定と将来ですけども。ですからこの次の MSG 会合のすぐ直後にウェビナーが開催されました。選挙管理委員会ですけど、これは堀田さんがメンバーですので、いらっしゃったら堀田さんからご報告いただいた方が良くと思うんですけど、高松さん特にこの件について報告なさいますか。

高松： すいません、直接聞いていなくてご遠慮します。

山崎： はい。わかりました。すいません。チェアと、コチェアの選挙がありまして、その投票期間が9月4日から11日までだったということですね。

加藤： アムリタがまたチェアとして再選されたとか案内が出てましたよね。

山崎： それはこの次の MSG 会合で。

加藤： ごめんなさい。失礼しました。

山崎： この時点ではまだ選挙がやる前でしたんで。2026 年の APriGF なんですが、バングラデシュから開催意向表明を受領したんですけども、追加の情報を提供するように事務局から要請中ということでした。ただ、バングラデシュから参加してる MSG のメンバーは、これは組織なり国の省庁からの提案じゃなくて個人のイニシアティブだということで、ちょっとこれは確認してから共有するということでした。以上が9月3日の会合の報告になります。

次に9月17日の MSG 会合ですけども、このときはもう APriGF がオンラインのみで開催するということが決まった後でした。それに向けていろいろやらなきゃねってということだったんですけども、オンラインでやるということで準備状況について議論されました。プログラムについてもオンラインのみということを前提に移行することについて協議されたということが、プログラム委員会から報告されています。Day 0 のプログラムについてもオンラインでやるという準備を進めているということですけども、最終的にはフェローシップとユースの意見も求めるということでした。2026ですけども、これちょっとおかしいですね。2026はオンラインだけとは限りませんので。ちょっとこれタイトルがおかしいですね。オンライン開催に関して、2025のオンライン開催に対して事務局の対応に感謝が表明されて、あとはフェローシップですね。フェローの財政的な影響などが対応が必要だということ。それから WSIS+20 についてはこの MSG 会合の直後にウェビナーがありますのでそれに参加してくださいねということ、そういったことが共有されました。9月17日の MSG 会合についてのご報告は以上となります。何かご質問ご意見などございましたらお願いします。

加藤：山崎さんありがとうございました。皆さんご質問等ございませんか。オンライン開催になってスピーカーの関係もあるので、スケジュールの時間を組み替えるとかそういう話は特に今ないんでしょうかね。時差を考慮してとかそういうことは特に議論されていないんでしょうかね？

山崎：確か時差に関しては予定通り、だからネパール時間で予定された通りやるというふうに伺っています。ネパールは時差だから整数で割り切れないんで、3時間15分でしたっけ。中途半端な時間で計算はちょっとしづらいですね。ホンダさんから手が挙がってますが、ご質問どうぞ。

加藤：本田さんお願いします。

本田：はい。しばらくぶりでちょっとキャッチアップできてませんでしたけど、オンラインでやるというのは知ってたんですけど、ネパールがホストだったということが理由っていうことを今知りまして、いわゆるニュースで知ってるようなレベルのあれは政治的な問題というのは、政治的な問題とインターネット遮断っていうことはわかってるんですけども、これはオンサイトというか、なんていうかどういう感じになるんすかね。現場はその何かをネパールに置くのか、それも全然なくていわゆる会議プラットフォームを使うのかわからないんですけど、それでもみんな各接続先からそれを繋ぐっていうことで、その要は、物理的なものに一切依存しない形にするっていうことなんですかね。

山崎：完全オンラインと伺っているので現地はないと思います。ネパールで実は2021年にもAPrIGFをやっていて、そのときはコロナだったんでそもそも国境を越えられなくて、ネパールの方だけが現地会場に集まって、他はオンラインでという開催形態だったんですけども今回それと同じにするという話は伺ってないので、完全オンラインだと思いますけども、堀田さんがいらっしゃいますね。堀田さん、認識は合ってますでしょうか？

堀田：認識合ってますね。Fully virtual って言ってるので、現地に集まることはなく全員個別に繋ぐということのようです。

本田：となると現地の情勢とかネットワーク事情には依存しないということで、大丈夫ということですね。

堀田：大丈夫かどうかかわからないですけど、ネパールの通信事情のせいで会議ができないということはないということですね。

本田：なるほど、そういう政治的なのか他のかよくわかりませんが、そのそういう状況についても、現地からの報告というか、それ以外の人の意見も聞ければなというふうには思っていて興味を持っていますところですよ。以上です。

加藤：はいありがとうございます。他、ご質問等ございますか。それではAPrIGFはこれぐらいでということで、ぜひオンラインになりましたけれども逆に現地に行かなくてもオンラインをベースに参加しやすくなるという気持ちを持っていろいろと参加していただければと思います。

それでは、今後のスケジュールということですが、これ特に何をもっていうことはないですね。一番後ろの方で、次回の候補として10月27日か11月4日かというのがありますけれども、それとは関

係なく、今後のスケジュールとしてもしあるとしたら、国内 IGF 年次会合を来年頭でやるとして、どんな感じでやるかっていうのは今後検討するっていうことかなと思います。

何か他、今後のスケジュールってことで、山崎さんございますか。先ほどの 10 月 8 日、それから 16、17 日、それから 20 日に夕方 5 時から日仏の会議というその辺のご予定を申し上げた通りですね。10 月は…

山崎： 加藤さんおっしゃった通り、8 日に IGF 報告会があつて。16、17 日は残念ながらご招待者のみということのようですので皆さん参加というのは難しいですが、その分サイドイベントとして 20 日夕方 5 時から開催します。日仏の国内 IGF の交流的な感じになりますので、ぜひご参加可能な方は参加いただければと思います。

加藤： はい。その後は？

山崎： WSIS+20 がありますので、しばらくそちらを皆さん追っていただく感じになるのかなと思いますけども、12 月 16 日、17 日以降はまた空きますので、年明けに国内年次会合を開くとすれば、準備して開ければと思いますが、本田さんから手が挙がってますね。

加藤： はい、本田さんお願いします。

本田： 私もちっといろいろありまして、昨年以降はあんまり顔出せてなくて申し訳ないんですけど、このスケジュールっていうことについて言うとはですね、今まではちょっと認識間違ったらあれですけども、この次回はどうかみみたいな感じで、このいわゆる活発化会合も次回分を直前に決める、直前というかその会議の終盤に決めるっていう形だったんですけど、ある程度その国際的な上位の IGF 上位というか国際 IGF の日程っていうのはある程度決まってるわけなので、その中で活発化会合とか、もしくは報告会とかもある程度先々のものは決めておくとか、そういう方が参加しやすいかなっていう気もしています。ですから皆さんの予定がそれぞれあるので、毎回毎回出れないとしても、今回は参加できないけど次回あるからっていうことで入りやすいかなというところと、逆に言うとその報告会とかもなるべくオープンに告知を書いておくことで、ML とかで山崎さんが転送したりしてくださっていますが、それに限らずやっぱ Web に載ってれば WebSearch を見て、何かこの会合面白そうやなって言って来るかもしれない、来られる方もいらっしゃるかもしれないんで、そういう意味でもちょっと告知とか広報のやり方を変えていくのはどうかなというのが提案にあります。先ほどチャットでも書きましたけど、この後の時間でやられる定例の勉強会についても大変ありがたい取り組みだと思ってますが、この勉強会をアドバルーンとしてそこに知識を勉強したいな、こういうことを知りたいなっていうところに対して興味を持ってくれた人を、こちらの IGF 活動の方にもちょっと参加してもらおうとか、そういうような形でなるべく輪を広げていけるようなものになっていければというのが私の個人的な意見としてはあります。いつも見慣れたメンバーというか方もいらっしゃるし、ちょっと私が久しぶりに参加したのもあってお名前一致してない方も何人かいらっしゃいますけれども、ぜひそういった意味で、これからの日本の、特に日本の IGF 活動は輪を広げてい

くっていうことをもっともっと主眼に置いていただきたいと、置いていきたいというのが提案としてあります。

加藤：ありがとうございます。ぜひそういうご収録進めていただきたいというふうに思います。あと、本チームの今後ということで、これは堀田さん前村さん何かコメントございますか。今はよろしいですか？堀田さんから特にないようですので、これはまたご報告事項が出てくればご報告したいというふうに思います。ということで6時が近づいてきましたので、あと決めることとして、次回は10月27日もしくは11月4日ということで、勉強会について、もし提案が近いうちに出れば、そのスピーカーの方の時間を確認した上でこの2日のどちらかで決めるということにさせていただきたいというふうに思います。もしその場合はそうでない場合も、先ほど申し上げたようにAPrIGFまたは日仏イベントの報告会という形で、このどちらかの日程でご提案したいというふうに思います。なるべく皆様のご都合の良いところを確認した上で日程を決めさせていただきたいというふうに思います。以上で今日のアジェンダ全てカバーしたと思いますが、何かご質問や、言い残したことございますでしょうか？特にございませんか。

本田：本田です。勉強会のトピックについての何か提案っていうのはしばらく前にメールでどうですかみたいのが流れて私も思いつくまま、なんかずらずらリストで書いたような気がしますけれど、何かそういう提案とかこういうことについてやりたいよねみたいな話っていうのはどこで話せばいいんでしょうかね。

加藤：この場書き込んでいただくなり、誰かこの場の方に提案していただいて、具体的にこの方をぜひスピーチっていうことですね、送っていただければ大丈夫です。それでみんなで検討するというふうに。

本田：なるほど、検討するというか、わかりました。

加藤：トピックとできればスピーカーにっていうこの方についていうことも一緒に提案していただければ。

本田：そうですね、あんまりふんわりやるよりも、そういうちょっと私もいろいろ調べたりして見ます。ありがとうございます。

加藤：よろしくお願いします。ということでちょうど次の時間が来たづいてきましたが、山崎さん、6時になったら若江様が参加いただくっていうことでお待ちしていればよろしいんでしょうかね。

山崎：はいお時間は確認したので。

加藤：はい。入っていただけるはずだけどまだお入りになられてないですね。皆さんこの活発化チーム会議の毎月の連絡会はここで一旦終了ということにさせていただいて、引き続き勉強会の方をこのままお待ちいただければと思います。どうも今日もありがとうございました。